

2016.11  
No. 35



# 佐賀大学病院ニュース

患者・医療人に選ばれる病院を目指して

## News & View

〒849-8501 佐賀市鍋島五丁目1番1号

TEL 0952-31-6511(代)

病院ホームページ <http://www.hospital.med.saga-u.ac.jp/>

### 人工透析室について

人工透析室はこのたびの再整備の中で、旧ICUを改修し、これまでの6床から10床（感染対策としての陰圧室1床を含む。）に増床となりました。

今回は増床のほかに、透析液を一括作製するセントラル方式に替え、透析原液の運搬などの労力が削減されました。また、プライミング（透析開始前の準備）を含む、自動化された機器を多数導入したことで、作業の効率化が図られました。移動可能で個々に治療設定調整の可能なこれまでの個人用透析装置は、これまでどおり使用できるように配備されています。

さらに、MEセンターの充実による水質管理の向上もあつて、オンラインHDF（より広範囲な毒素の除去を可能にするため、透析と同時に、体液の濾過排液も行う方法。排液分の体液を補充するため電解質液の補給が不可欠で、この大量の補液として透析液をそのまま使用する。）にも対応できる環境となつています。担当の看護師も、腎臓内科の病棟である7階西病棟から派遣できるように、病棟との一貫した腎不全



▲腎臓内科のスタッフ

人工透析室長

診療教授 池田 裕次



教育（管理）が可能となりました。人口減少、高齢化の一方で、患者数の頭打ちが予想されて久しいものの、本院のような中核施設での透析を中心とした血液浄化療法の需要は依然右肩上がりです。6床時には100%以上であった占床率は、増床後も100%近い状況が続いています。その半数以上は腎臓内科以外の診療科での、腎不全合併症治療の患者さんです。以前から、透析室の満床を理由に合併症の治療に支障が生じることを極力避けたいと考え、土日夜間を問わずオンコール体制を徹底し、スタッフ全員で頑張つてまいりました。臨床協力医として院外の医局員の協力も仰ぎ、腎不全の合併症へ積極的に対応される診療科の皆様とともに、これからも頑張つてまいりたいと思つております。今後ともご理解、ご協力をよろしくお願ひいたします。



▲人工透析室の様子

### 地域総合診療センター嬉野について

平成28年4月、2つ目となる佐賀大学医学部附属病院地域総合診療センター（略称：地総センター嬉野）が独立行政法人国立病院機構嬉野医療センターに開設されました。佐賀県の地域医療再生計画「幅広く対応できる総合医」を育成するため、地域の医療現場で総合内科診療を実践しながら本学教員の指導も受けられる、本院との連携を積極的に展開する施設という構想の下に設立されたのが地総センターです。平成24年、佐賀市立富士大和温泉病院内に設立された地総センターは、主に慢性期疾患に対応しています。今回は、救急や重症を含む急性期の内科疾患を中心に研修できる施設として、嬉野医療センターが選ばれました。

地域総合診療センター長

教授 杉岡 隆



地総センター嬉野には、本院総合診療部から病棟医長クラスのベテラン医師をトップとして、総合内科専門医を取得した中堅医師、後期研修医の3名を配属しています。富士大和温泉病院と同様に、本院から教授や講師クラスの医師が定期的に訪問し、回診やディスカッションを共に進めます（visit teaching）。また、本院と直結する電子カルテなど、IT関連インフラも整備してまいります。



▲左から、嬉野医療センター 河部院長、本院 杉岡教授、地総センター嬉野 朝長医師、徳島医師、中山医師

るタフな総合医を育て、佐賀県の地域医療に貢献したいと思つております。

### 熊本地震の災害医療支援活動

#### 慢性疾患患者さんへの対応



看護部

慢性疾患看護専門看護師 永瀧 美樹

平成28年4月14日、4月16日に、最大震度7の大地震が熊本県を中心とした地域で起こり、各地で甚大な被害をもたらしました。この地震により約18万人の方が被災し、慢性疾患を持つ多くの患者さんもお避難所での生活を余儀なくされ、病状の悪化が心配されました。

そのような中、地震直後から現地で糖尿病患者さんのサポートを行っていた熊本糖尿病支援チーム（K-DAT）から、避難所での糖尿病患者さんの療養支援を行うために、糖尿病に関する専門的な知識を持つ糖尿病療養指導士のボランティア派遣要請がありました。

その要請を受け、本院は全国のボランティア派遣の調整を担当するとともに、糖尿病専門医、糖尿病病態栄養専門管理栄養士、糖

現地のスタッフと協力し、血糖測定や食事、運動、治療薬に関するアドバイス、足のケアを行いました。避難所での生活はストレスも多く、食事も炭水化物が中心となるため、これまでは良好なコントロールであった方でも血糖値が非常に高くなっていました。避難所で手に入るものは限られており、そこにあるもので工夫しながらの療養生活支援が必要でした。

今回のボランティア活動とおして患者さんの日々の備えだけでなく、私たち医療従事者も円滑に支援ができる体制を構築していく必要があると実感しました。



▲熊本地震による被害



▲現地での活動の様子

人工透析室について

池田 裕次

地域総合診療センター嬉野について

杉岡 隆

熊本地震の災害医療支援活動

慢性疾患患者さんへの対応

永瀧 美樹

# 診療科紹介 泌尿器科

泌尿器科は、腎尿路及び男性生殖器、さらに副腎・後腹膜の疾患を取り扱っています。

診療は男女問わず、新生児から高齢者まで幅広い年齢層を対象に行っているのが当科の特徴です。その中でも、前立腺がん、膀胱がん・腎盂尿管腫瘍、腎がん、精巣がんなどの泌尿器がんが診療の大きなウェイトを占め、その他、尿路結石、小児腎尿路疾患、排尿障害と続きます。大学病院の性格上、手術療法による治療が多いのですが、リスクの高い症例も多く、医局員一同、常に医療安全を心がけて診療にあたっています。

治療については疾患の根治性を第一とするのは言うまでもなく、前立腺がんに対するロボット手術を代表とする低侵襲で臓器機能温存の医療を提供し、生活の質（QOL）を落とさないことを目標に



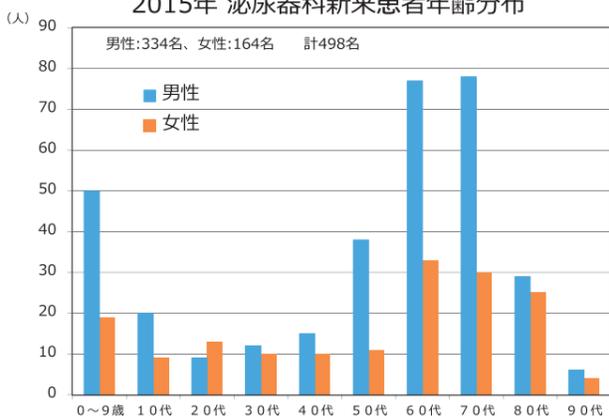
▲ダビンチ手術



診療科長  
野口 満

しています。超高齢者の浸潤性膀胱がんにおいては、膀胱全摘術、尿路変更だけでなく、動注化学療法+放射線療法の併用によりQOLに貢献する膀胱温存治療も行っています。患者数の多い尿路結石の手術は、対外衝撃波碎石術（ESWL）から尿道からのファイバーレーザーによる碎石（TUL）へ治療がシフトしています。この治療も低侵襲で短期間の入院加療で行っています。また、小児の腎尿路疾患の手術を行っている施設が少ないこともあり、近隣地域から受診いただいたり、小児科との連携を行いながら小児疾患にも力を入れています。その他、女性医師による女性泌尿器科疾患の診療は女性の患者さん方に好評です。

2015年 泌尿器科新来患者年齢分布



# 「院内緑化推進プロジェクト」

## エコロジーガーデンの設置について

本院では、高度で安心、安全な医療を患者さんに提供するという医療の使命と同時に、患者さんへ「癒やし」や「安らぎ」を与える環境の整備にも取り組んでおります。

その取り組みの一つとして、平成21年10月から院内に「エコロジーガーデン」を導入し、院内の緑化プロジェクトを推進しているところです。



この「エコロジーガーデン」の設置につきましては、各企業様からのご協賛金により運営を行っており、今回も多数のご協賛をいただきましたおかげで、継続することができました。

ご賛同いただきました皆様にはこの紙面をお借りしまして、厚く御礼申し上げます。また、この院内緑化プロジェクトは、今後も引き続き実施していくこととしておりますが、設置内容等の更なる充実を図るためにも、皆様方のお一層のご支援をよろしくお願い申し上げます。

### ご協賛いただきました企業様名（順不同）

- 一般財団法人栄仁会
- 株式会社佐電工
- 株式会社大島産業
- 西日本空輸株式会社
- ホテルニューオータニ佐賀
- 佐賀ガス株式会社
- らゐ薬局
- 有限会社深川電気
- ブルームビルド株式会社
- 株式会社パースジャパン
- ワタキューセイモア株式会社九州支社
- 深川製菓株式会社
- 株式会社マベック
- 株式会社竹中工務店
- その他（匿名希望）

# 新採用看護職員について

今年度は、52名の新採用看護職員が入職しました。

初日は、リクルートスーツ姿の新人でしたが、2日目からは白衣に身を包み、3日間の「採用時研修」を終え、それぞれの部署に配属されました。

配属後は、看護職員院内研修プログラムに沿って、「基本的看護技術」「看護過程」「リフレッシュ」などの研修を受けて学んでいます。

「基本的看護技術」では、ベッドメイキングや採血、急変対応など演習を何度も繰り返しながら身につけ、「看護過程」で



▲看護部長からの辞令交付



▲基本的看護技術研修：急変対応

は、一人の患者さんの入院時から退院後までを見据えた看護を記録をとおして振り返り、「リフレッシュ」では、体を動かして気分転換を図り、翌日からまた頑張ろう！とみんなが団結しました。

新採用者は、入職した4月から半年以上が経過し、部署の先輩看護師に支えられながら、全員笑顔で元気に頑張っています!! そして、本院の看護師の責任を日々感じています!



▲就職して半年、元気に頑張っています！

# 連携病院紹介

## 山口クリニック

### 【病院の紹介】

当クリニックは、平成2年3月に内科・小児科として開業しました。当初は小児の患者さんを多く診察していましたが、若いお母さん方の認識の変化でしょうか、最近では風邪で内科・小児科を受診されなくなり、季節による受診者の変動はなくなりました。

検査は、エコー、胃内視鏡を中心に行っています。特にエコーでは、内科以外の疾患にもよく遭遇します。検査時間確保のため、診察時間前に原則的に上腹部から下腹部まで、腸管も含めて検査しています。

また、西洋医学だけが医療とは思っていませんので、東洋医学的なアプローチも実践しています。患者さんが楽になれば、西洋医学にこだわる必要はないと考えています。

### 【本院との連携】

佐賀大学医学部附属病院の目の前ということもあり、日頃から大変お世話になり助かっています。

セカンドオピニオンのような目的で高診をお願いすることもあり、特に総合診療部の先生方からは、第7診察室との感覚



院長 山口 茂

で受け止めていただいているようです。他科の先生方にも、いろいろとお世話になっていますが、これからも患者さんの利便性も考えて高診をお願いすると思っておりますので、その時はどうぞよろしくお願いたします。

# バーチャル水族館がやってきました！

平成28年7月7日、8日の2日間、入院している子どもたちの「泳いでいる魚が見たい」という七夕の願いを叶えようと、大分マリンパレス水族館「うみたまご」の映像を大型スクリーン（2面）に高画質で投影するバーチャル水族館を実施しました。

「大回遊水槽」で泳ぐお魚や「セイウチとイルカのショー」を見た子どもたちからは笑みがこぼれ、付き添いのご家族やスタッフからも「癒される」と大好評でした。



▲バーチャル水族館の様子